

## 令和 7 年度 小松地区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】 令和 7 年 11 月 26 日(水)19:00~20:30

【場 所】 小松公民館 1 階 大会議室

【参加者】 地域:20 人(小松地区連合自治会長ほか)

市:市長、副市長、危機管理監、建設部長、小松公民館(司会)

【テーマ】 (1)災害時の対応について

(2)市道の管理について

### **R7.11.26 当日の発言内容**

#### (1)災害時の対応について

##### ■参加者

- ・南海トラフ大地震発生の可能性や大雨による洪水の心配もあるためこのテーマにした。私たちはどのように避難すればよいか教えていただきたい。
- ・避難場所の設備や備品等は十分であるか、市民は不安に感じていると思う。
- ・地震が発生した場合、鉄筋の建物は大丈夫だと思うが、木造家屋は倒壊する恐れがあるので、補助制度に関して教えていただきたい。

##### ●危機管理監

- ・大規模災害の場合、多数の被害が出る可能性があり、自助、共助が重要となる。大規模災害であるほど公助の支援が遅くなる。
- ・風水害は天気予報等で予測できるため早めの避難が重要。特に台風は予想ができるので、HP やニュースなどで積極的に情報を入手し、安全なうちに親戚や知人の家やホテルなどへの避難を検討いただきたい。
- ・地震は予測が不可能なので、怪我や自分の命を落とさないために平時から住宅の耐震化や家具の固定化が必要と考えられる。
- ・地震の揺れが収まったあとに避難が必要で、指定避難所には発電機、投光器、マンホールトイレ、公民館には、必要最低限のアルファ米を備蓄している。市民公園にある防災倉庫に食料や飲料水などを備蓄しており、災害時には必要に応じて運搬する。
- ・大規模災害において避難者全員に対して十分な物資を準備することは困難なので、自助によって対応いただきたい。
- ・危機管理課では、講師を派遣して防災説明会を実施しているので、活用いただきたい。

##### ●建設部長

- ・木造住宅を耐震補強してもらうために国県市による補助制度を設けている。対象は、昭和 56 年以前に建てられた旧耐震基準の住宅となっており、令和 5 年度の調査では、西条市内に旧耐震基準の木造家屋が 5832 戸で、小松は 581 戸ある。
- ・流れとしては、専門の建築士による耐震診断(全額補助)後、補強の程度を設計してから工事となるが、工事に何百万も費用がかかる場合があり、工事を断念する人も多い状況であったため、これまで対象ではな

かった設計費用の部分も補助対象とするなど、条件を緩和しながら改修をお願いしている。

- ・令和 7 年度の実績としては、耐震診断をされたのが 23 戸、改修工事を実施されたのが 22 戸。
- ・令和 6 年度の工事費用の実績は、一件あたり約 150 万～450 万円。補助対象は耐震工事費用のみだが、耐震工事と合わせてリフォームするケースでは金額が高い。
- ・能登半島地震が発生した際に、問い合わせが増えたので補正予算を組みながら、診断や改修工事の件数を増やしたケースがある。
- ・補助金の上限額は、設計費用が 20 万円、工事費用は 115 万円となっている。
- ・家全体を耐震改修することが難しい場合に備えて、新たに令和 7 年度から耐震シェルターの購入費用(上限 40 万円)を補助する取り組みを始めた。
- ・西条市では防災意識が高い人が多く、耐震改修事業は松山市に次いで県内 2 番目に件数が多い。旧耐震基準の建物で耐震化が完了している件数は、県内でも上位に位置している。

#### ■参加者

- ・3年前に補助金を活用し耐震改修を行い本当によかったと思っている。
- ・この補助制度は、チラシで見かけた。また、家具の固定器具の購入補助は、市 HP で偶然知った。耐震シェルターの補助については、今回初めて知った。素晴らしい制度なので、どのように市民に周知していくのか。

#### ●建設部長

- ・市 HP で案内しているが、個別のチラシを配布するなどの積極性が足りておらず、周知不足だと思う。
- ・耐震改修については、広報等にも継続的に掲載している。シェルターは新しい取り組みなので紙面を割いて紹介する等周知に努めてまいりたい。

#### ■参加者

- ・シェルターの概要を知りたい。

#### ●建設部長

- ・部屋の中に置く「強固な箱」だと思って頂ければいいと思う。正方形のような木枠で、上側には屋根があるが、左右には壁がないパターンが多い。

#### ■参加者

- ・ガラス等が飛び散った場合は大丈夫か。

#### ■建設部長

- ・壁がなく、窓ガラスが割れたときに飛び散る可能性があるので、できるだけ部屋の中心で周りのものが倒れてこない場所に設置することがより安全だと思う。

#### ●参加者

- ・公助を含めて自治会が何をすべきか、若い世代にどう引き継いでいくかということを考えている。自分が住んでいる地域は河川が氾濫する可能性もある地域だが、自治会の役員も高齢化している。

- ・共助の参考になるような事例があれば、教えていただきたい。

## ■危機管理監

- ・災害発生時には、まずは自分の命を守ることを優先して考えていただきたい。次に、自治会や隣近所の方を助けることになる。
- ・阪神淡路大震災の際にも、近隣の人に助けられたということがある。最終的には、隣近所の方同士の助け合いが大事になろうかと思う。
- ・要支援者がいる場合は、地域内で事前に把握し、災害があった時にその方の状態を地域の皆さんで見守っていただきたい。
- ・自治会の加入率の低下や少子高齢化、ライフスタイルの多様化や核家族化により地域活動が縮小している状況だが、いざという時には地域の皆さんの助けが必要になってくるので、防災だけでなく日頃の地域活動に皆さんが参加していただくことがいいと思う。
- ・備蓄品として必要な物は各家庭で異なるため、一概に数を伝えることができないが、最低 3 日分の食料を備蓄しておいてほしい。例えば、水は 1 人当たり 1 日 3 リットル(飲料用、料理用)必要ということもある。
- ・小松地域には、指定避難所が 6 か所あるが、災害によって状況が異なるので、状況に応じて市がお知らせする。
- ・公民館には、アルファ米、サバイバルシート、簡易トイレ、マンホールトイレ等、また発電機やガソリン携行缶、投光器といったものも備蓄している。断水があった場合には、飲料水を運ぶことになっている。
- ・災害によって使える避難所と使えない避難所があると思うので、災害に応じてどこに避難するか考えていただきたい。

## ■参加者

- ・自治会加入促進のために何か考えはあるか。
- ・自助公助にしても、(自治会非会員がいるため)実際自治会から動くことはなかなか難しい。市から集会所に備蓄等いただいているが、自治会としての形をなるべく維持しておきたい。

## ●市長

- ・どの地域においても自治会加入率が減少傾向にあり、全国各地で頭を悩ませている。
- ・任意団体であるため行政から強く加入をお願いはできないが、サポート方法を考えていく必要がある。
- ・コスト面でのサポートを考えているが、すぐに答えが出るわけではない。ただ、災害のことを考えると真剣に考える必要がある。

## ●副市長

- ・若い方が自治会に加入しない理由の一つに、通常の会費とは別にだんじり等でお金が多くかかるということもある。
- ・自治会未加入者がごみステーションの利用する場合に、お金を徴収している地域もあり、各自治会で策を考えているので、工夫していけばいいと思う。
- ・今後、工夫をされている自治会の取組みがあれば、こういった場でご紹介したい。

■参加者

- ・自治会に加入することでポイントを付与し、1ポイント=1円として利用できる取組みを実施している地域があるようなので、そういったことも前向きに考えていただきたい。

●副市長

- ・参考にさせていただく。

■参加者

- ・災害時の自治会への支援の対象が、団体か個人か明確にすれば、自治会を頼りにするようになり自治会の脱会を防ぐのに役立つと思う。

●副市長

- ・自分の地域では、自治会の中に防災組織を作り、市の制度を活用して資機材として発電機を備えた。そういった備品は自治会に加入していないと使用できないと思う。
- ・共助としては、「無事です」カードを配布しており、玄関先にカードをかけてもらうことで近所の人々の安否を確認できる。
- ・各自治会に自分の地域は自分たちで守るという意識を持っていただきたいので、そういったところも行政がアピールしていく必要がある。

●危機管理監

- ・自主防災組織に対する補助制度がある。自治会が土台となって組織を結成されていると思うので、協力いただきたい。

■参加者

- ・耐震診断は年間で申請上限があるのか。

●建設部長

- ・予算の関係で23件ほどだが、大きい地震が発生したときには、問い合わせも増えるので、県や国の補正予算を活用して、追加募集する場合もある。

■参加者

- ・耐震診断と改修工事、シェルター購入に対してそれぞれに補助があるのか。
- ・部屋にシェルターを設置する場合、季節によって寝る場所が変わることもある。移動は可能なのか。

●建設部長

- ・それぞれに補助があり、耐震診断は満額補助である。改修が難しい場合にシェルターの設置も考えられる。メーカーによって異なると思うが、置くだけのタイプもあったと思う。ただ、メーカーが組み立てることになると思うので、移動させる場合は設置や撤去費用が必要となる可能性がある。

■参加者

・学校等は耐震化が進んでいると思うが、小松公民館含め市内の公民館の耐震化の状況を伺いたい。

●建設部長

・小松公民館もSRF工法というやり方で一応終了している。

■参加者

・小松には避難所が6か所あるとのことだが、小松公民館以外の避難所に物資は備蓄されているのか。

●危機管理監

・毛布はどの避難所にも備蓄している。

・簡易トイレは小松小学校と中学校にあり、マンホールトイレについては全ての避難所に備蓄している。

・発電機やガソリン携行缶、投光器も各避難所に置いている。

■参加者

・自治会内に高齢者が多い。災害発生時には自分で集会所まで避難できると思うが、数日以上避難する場合は、各地域の住民が近くの小中学校まで車で送迎するというところか。

●危機管理監

・地域住民で協力していただくということになる。

## (2) 市道の管理について

■参加者

・昨年、小松オアシスブリッジ周辺の雑草処理について、議員を通じて清掃をお願いしたところ、すぐに対応してくれたが、最近清掃されていない。

・地域の人が生活道として使用するには問題ないが、県外客がセンターラインを越えて通過していくことがある。また、お遍路さんが歩いていて危ないときがある。

・予算の関係もあると思うが、年2回程度見回りをして草を刈ってほしい。

■参加者

・周辺に高速道路の取り付け道路があり、荒れている箇所が多い。市に相談に行くと、対応してくれるということだったが、言わないとやってくれない。また、所管部署が違うといった理由で、一括で実施してもらえない。(左側のみなど)

・特に中央公園の入口は、対外的なイベントも行われているので、見栄えも非常に悪いと思う。

・路肩の草が荒れているときに地元の人で草刈りをしたら、次年度は予算を取っていないという理由で対応してくれない。

・継続的な管理ができる体制作りをぜひお願いしたい。

## ■参加者

・小学校の通学路も同様の状況。伸びたつるを避けるために車道側に出て危ないので、対応を願いたい。

## ●市長

・「道路・公園等異常通報システム」があるので、スマホから通報いただけたらと思う。市公式 LINE を登録するとそこからもアクセスできる。

## ●建設部長

・舗装が悪い、雑草が伸びている場合など市民の方々から「道路交通・異常通報システム」を使って、通報いただいている。24 時間送信可能で、一方的に送っていただけたら、職員が場所を確認し対応する。  
・道路の異常を電話で説明するのは難しいが、スマホで写真と位置情報を送っていただくことで、比較的容易に場所や状況を説明できる。

・令和 5 年頃に導入し、令和 7 年は、平均月 20 件ほど通報を受けている。通報に対して、市 HP で 1 カ月ごとに対応を報告している。対応が遅れる場合には、現状が分かるように公表している。

・西条市の市道は山間部を含め 1,094km で、新居浜市の倍近い距離の管理を担っている。3 つに分類分けしてパトロールを実施している。

①通常パトロール(職員による日常的なパトロール)

②定期的なパトロール(職員で班体制を組んで、月に1回、平地部と山間部を交互にパトロール)

③緊急パトロール(台風等の警報が出た場合は、山間部も含めて崩れていないかなどを確認)

・舗装修繕に関する要望が一番多く、個人の方の要望としては、普段利用されている道路の状況が多い。自治会長の場合は自治会の区域内で広域になる。市議会議員は、校区全体の要望となるので、緊急度が高くなるものが多い。

・経験の浅い職員の場合、修繕の優先順位付けが難しいので、新しい取り組みとして、約2年前からスマートフォンで AI を活用して舗装状態を判別し、優先順位を付けることができるものを取り入れている。

・舗装の修繕要望は非常に多いが、各校区まんべんなく対応しているため、長さがある場合は複数年度かけて実施することもある。できるだけ公平性を担保しながら、緊急度が高いものはすぐ対応できるよう心がけ今後もしていきたい。

## ■参加者

・多賀地区に、幅が狭く、両サイドに溝がある市道があって、死亡事故も起きている。蓋をするのは個人負担になるのか。

## ●建設部長

・水路に蓋をする場合は水路の管理者に判断によると思う。土地改良区所有の道路であれば、改良区の手承を得る必要があるが、雨水路の場合もある。

・基本的に幅員 4m 以上にしなければならない決まりがあるので、蓋をしても 4m 以下であれば、土地の寄附などご協力いただいて道自体を拡幅するという方針になる可能性もある。

■参加者

・道路の拡幅は難しい。県道から入って小学校の手前ぐらいまで蓋をするだけでも十分だと思うが、土地改良区にお願いすればよいか。

●建設部長

・費用もかかるので、土地改良区で蓋をかけるということはあまりないと思う。

■参加者

・自治会から市の方に伝えればよいか。

●建設部長

・自治会長から相談を受けて、現場を確認することが多い。教えていただいたら確認に行くことはできる。

■参加者

・自治会長に相談してみる。

■参加者

・10月中旬までオアシスブリッジの雑草が荒れている状態だったが、中旬を超えた頃に綺麗になっていた。対応してくれたと思っていたが、その後自転車イベントがあった。大きな組織からの依頼で実施したのではないかと推察するが、そういったことであれば問題がある。当時の状況が分かればお聞きしたい。

●建設部長

・草刈りの状況を確認し、公民館を通じて回答させていただく。

■参加者

・市道全体のパトロールをしているのか。パトロールをして修繕もしているのか。

●建設部長

- ・通常パトロールは目視で行うが、異常があると判断した所では、一旦車を停止して確認する。
- ・定期パトロールについては、職員2人が一般体制で、1年間かけて市道1,094kmの山間部と平地部を回るようにしている。
- ・異常時点検については、台風等が過ぎ去った後に、異常がないか点検するパトロールを職員が行っている。